

令和 6 年度能登半島地震 神奈川 DWAT 活動報告会 参加報告  
事務局 災害対策部 中橋 真弓

2024 年 10 月 24 日、かながわ県民センターにおいて、令和 6 年能登半島地震において初めて実装となった神奈川 DWAT チームの派遣報告会が開催されました。

神奈川 DWAT は、先遣隊及びリーダーによる検討会議を除き多くの研修会をリモートにて開催したため顔が見える連携性が不足し、出動したチーム員も集合場所で初めて顔を合わせ自己紹介から始める状況を踏まえ、この度の報告会は対面式での実施となりました。

報告会は、隊員及び参加団体からの参加者により行われ、神奈川 DWAT 担当による派遣概要説明をはじめ、金沢市及び輪島市で活動した派遣チームからの活動報告が行われました。派遣チームには本会より 2 名の理学療法士も参加され、活動報告に登壇されました。

活動報告は、①活動概要、②派遣により見えてきた課題、③提案事項及び現場や周囲の写真などを交え、被害状況や実務状況が伝わる写真を交えて行われました。

報告内容から同一場所の派遣でも経過時間により実状は刻々と変化し、対応内容や業務内容が変化していること、DWAT の活動実績が少なく周囲の派遣チームとの連携が少ないことなど実働による共通の課題が挙げられていました。また、紙媒体によるアセスメント用紙の使用は保管だけでなく、他チームとの情報共有も行えず、避難者に多数チームが同内容の聴取を行うなど継続的な問題も含まれていました。

課題としては、共有する情報を含めたツールの必要や平時からのチーム内及び他の支援団体（特に保健医療）との連携の必要性など各派遣チームから同様の意見が多く提案されてきました。

最後に質疑応答が行われ、派遣チームへの活動内容に関する質問や神奈川県担当者への今後の連携やツールに関する質問など、活発な意見交換が行われました。

現在、神奈川 DWAT の登録数は 256 人となり、自分に何ができるかと悩み登録を控えた方など、今後も増員の見込みがあり、関連団体以外への活動や業務内容の周知が必要であること、また神奈川県が被災した際の受援及び被災地としての活動についても検討が必要であろうとの意見で幕を閉じました。

本会においても、被災の際は自施設等での役割を持ち、派遣要請や出動への対応だけでなく、福祉避難所となる施設従事者以外の養成など多くの状況を想定した対応が望まれると思われました。

今後、災害対策部においても、神奈川を含む DWAT 活動の周知に尽力していきたいと思えます。

輪島市第1クール参加 前田 拓 氏



輪島市第3クール参加 西谷 真亜沙 氏

